Ｙｏｋｏｈａｍａ
ふくしネットワーク

Ｙネット通信

〔発　行〕
横浜ふくしネットワーク
（代表：正宗　忠）
http://ynet.d2.r-cms.jp/
〔編集責任者〕荒木和彦（松風学園）
横浜市泉区上飯田町1987
Tel 045-802-0441
Fax045-803-4963

りようしゃさんからの こえ

【社会福祉法人白根学園　白根青年寮の自治会活動より】



白根青年寮は現在男女合わせて 21 名の利用者が共同生活をおくっています。

その中で自治会があり、会長・副会長が中心となり全員で活動しています。自治会として決まった時間は設けていませんが、毎日夜行われる点呼の時間に、食事片付けの当番や掃除分担を決めたり、日常生活の中で「これはおかしいな」と思ったことについて話し合って解決するなどしています。集団生活なので、日々さまざまな意見や苦情が出ることは仕方のないことです。それらを一つ一つ解決しながら、みんなが生活しやすい環境を目指しています。

この他、年１回全員で外出する自治会行事というものがあります。今年度は、中華街でトリックアート見学、関内でお好み焼き食べ放題という内容で、楽しく１日を過ごしました。普段、なかなか出かける機会の少ない方々にとっては、とても貴重な行事となっているようです。



ある日の点呼での話し合い
A「青年寮から、グループホームへ出てしまった人が何人かいるので、当番に穴があいてしまっています。もう一度決めなおした方がよくないですか？」
B「これから新しく入寮してくる人がいるから、今決めなおしてしまうと、もう一度決めなくてはいけないから、必要ないと思います」
A「でも、ゴミ当番がいないとどんどんたまってしまうので、どうしたらいいですか」
C「今だけゴミ当番をやる人を決めればいいんじゃないですか」
D「それなら、みんなより出勤する時間が遅いので私がやります。でも、生ゴミが重くて大変なので、もう一人誰かやってくれる人いませんか」
E「やります。でもやり方が分からないので、やったことのある人教えて下さい」

このように、いろいろな意見を出しながら決めていきます。職員は見守り程度で、必要があれば助言をしています。

第4回Yネットセミナー報告

（社会福祉法人白根学園 しらねの里　大政 江利）

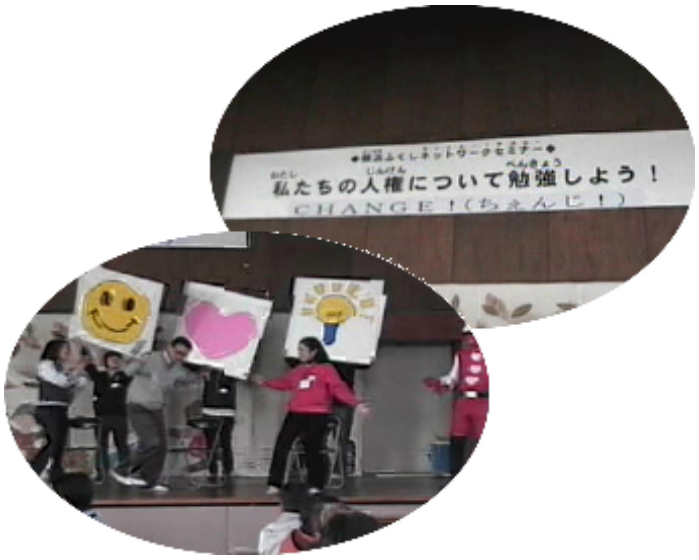
初めてＹネットセミナーが開催されてから、早いもので今年で４回目になりました。



今回は、２月１９日（金）横浜市松風学園の体育館で、横浜市障害支援課の斉藤様をお迎えして開催されました。今回のテーマは「ＣＨＡＮＧＥ！（ちぇんじ！）」さあ！何が変わるのでしょうか？

第１部の「基礎講座」では、東洋英和女学院大学教授の石渡和実先生のお話です。「みんなを大事に思える・素敵だなって思いながら暮らせるようになる」って人権・・・「声に出して言おう！」「利用者さんも職員さんも変わらなくちゃ！」と、わかりやすいお話で劇につなげていただきました。

第２部の「劇をみよう」では、日常の生活の中で職員さんに聞きたくても諦めていた自分を変えよう！「もっと、わかりやすく伝えてよ！」と知ってもらおう！そして、職員さんにも変わってもらおう！という劇を、大きなプラカードで利用者さんの気持ちを絵で出したり、プロジェクターを使用したり、利用者さんに声を出す勇気をくれる“チェンジマン”が登場したり、「聞いて聞いて！わかるって気持ちいい～！」という事を、楽しく知ってもらおうと工夫してみました。



今回のテーマ「チェンジ！」を会場の皆さんと大きな声で言ったり、チェンジマンの登場に驚いたり・・・会場の皆さんは、真剣に劇を見てくださっていました。

第３部「体験してみよう」では、１０人程度のグループに分かれて職員さんの「呼び止め方」の練習をしたり、「あなたが知りたい時、どうしていますか？」というテーマについて普段感じている事等を話し合っていただきました。「待って～！」「だめ～！おしえて～！」「お父さんビール！」、職員の肩をたたいたり、袖を引っ張ったりと、呼び止める言葉や方法も人それぞれ多彩です。話し合いの中では、「職員さんはいつも忙しそうで声をかけられない」という、とても考えさせられる意見も出ていました。

最後に、石渡先生より「皆さんに色々な事を教えてもらった気がします！皆さんが素晴らしかった事を拍手で表しましょう！」と、大きな拍手で締めくくっていただきました。



今回のセミナーも、１００名以上の方に参加いただきました。今回も OP さんや会場となった松風学園さん、その他多くの方々の多大なご協力の上、無事に終える事が出来ました。「楽しかった」との声もいただいたり、他の施設の知り合いの利用者さんに会えた！と喜ばれている方もいました。皆さんの笑顔が力になります。

むずかしい人権というテーマについて、少しづつでも感じていただける様に、一年一年積み重ねながら、Ｙネットセミナーを充実したものにしていきたいと思います。

OPネットワーク交流研修会の参加報告

（Ｙネット OP 代表　加藤正治）



これまで、県内の福祉オンブズマン団体が運営側となり、情報交換集会や研修会などを開催したことはありましたが、支援者側が中心となって運営された交流集会はありませんでした。今回のオンブズマンネットワーク交流研修会は、その意味で画期的な転機となるものでした。当日(11/27)は、私他大上 OP が、Ｙ ネット代表 OP のとして参加させていただきました。

第１部は、当Ｙネット OP が誇るイケメン弁護士の菊地哲也さんが講師を務め「人権侵害が起こる構図」と題して、虐待・権利擁護・オンブズマン活動についてお話されました。

中でも、虐待を招かないために支援者側は、リスク因子（①閉鎖性②立場の優位性③職場環境④体罰の導入⑤専門性の欠如）を特定し、早期対策（支援の共有化・振り返り、からかい行為の蔓延の除去、職員のマイナス感情の除去、研修不足への対応、職員のストレスへの対応）を講じなければならないこと、利用者の自己決定に対する支援をするために支援者側は、必要な諸要素の再確認（①本人を理解しているか②信頼の程度の把握③分かりやすい説明がなされているか④本人の意思が反映されているか⑤本人と意見交換がなされたか⑥支援が検証されているか）をすることが重要であるとお話しされましたが、その部分は、とても貴重なものでありまして、その後に行われました第２部グループディスカッション（１２グループに分かれ事例を基にディスカッションが行われ、意見交換がなされた）において、議論の指針となるものであったと感じました。



私が参加させて頂いたグループディスカッションのグループには、Ｙネット加盟施設の職員さんもおられました。その職員さんのご意見は、支援者側の都合や事情にとらわれない利用者を中心に考えた前向きなもので、グループ参加者一同が感嘆するほどのものでありました。

私は、当日の講師・Ｙネット加盟施設の職員さんの発言が頼もしく、且つ誇れるものであったことから、大変気持ちよく、嬉しい時間が過ごせたと感じましたことを感謝を込めて報告させていただきます。

Yネット推進委員の声



（社会福祉法人恵和 恵和館　Yネット推進員　吉岡 秀樹）

いつもお世話になっています。恵和館の吉岡です。Yネット推進委員になり早いもので、二年がたとうとしています。多くの方との交流の機会や、日々自分がしている支援に対する気づきがあり、とても充実した活動を出来ていると実感しています。

私にとってYネットの一番の仕事とは、Yネットセミナーです。二年間続けて実行委員をさせてもらっています。人権や権利を皆さんにわかりやすい形でお伝えをさせていただく事を目標として活動を行っています。

準備することも多く大変な活動と思われている方も多いと思います。実際そうなのかもしれませんがとても楽しい活動です。

日々支援をしていて、「こんなことしてみたい・・・」、「あんな支援したら・・・」など考えることがあります。しかし「なかなか実行することが難しい・・・」と感じることも数多くあります。

そんな吉岡にとって、Yネットセミナーは自分達の想い描いたものを実現するチャンスでした。一つの目標に向かい、多くの人たちと力を合わせ、想いを形にしていくことがこんなにも楽しいものかと実感し、明日からもがんばれそうな気がします。

多くの方々に協力をしていただき、今回もセミナーを無事終えることができました。本当にありがとうございます。

因みに、セミナーに参加していた自施設の方が、「吉岡さんにもチェンジしてもらわないとなー」と言っていたそうです・・・。嬉しいのやらなんだか複雑な気持ちです。

多くの人に支えられ、今自分がここにいることを忘れずに、今後も出来ることを一つずつ丁寧に行って行きたいと思います。皆さんには、これらかもお世話になることがたくさんあると思いますが、よろしくお願いします。

オンブズパーソンの声



（偕恵担当オンブズパーソン　中畝治子）

ＯＰ活動に参加させて頂いてから、あっという間６年になります。月に一回の施設訪問ですが、回を重ねると利用者さんがだんだん顔を覚えて下さいます。表情が柔らかくなり、笑顔を見せて下さったり、声を掛けて下さる様になります。こちらも、皆さんにお会いできるのが、嬉しくなります。それを思うとＯＰ以外にも普段から、もっと多くの方々が施設を訪れ、利用者さんと触れ合う機会が有ればいいのにと思います。

利用者さんの希望の中で多いのが、「家に帰りたい。」というものです。御自身が高齢で片親になったり、ご両親共にすでに亡くなったり、いろいろな事情で家に帰れない方が多くいらっしゃいます。利用者さんにとってご家族や家は、大切な心の寄りどころなのだと思います。なので、その御家族に会えなくなったり、家に帰れなかったりすることは、とても不安なことだと思うのです。だとしたら、そうした希望に、どの様に応えられるのだろうと悩みます。

いつも生活している施設から離れて、気分が変えられる旅行も良いと思います。自立支援法が廃止になったら、又、宿泊旅行が復活できる様にと願います。利用者さんにとって、なつかしい思い出の場所にいくのも良いでしょう。関わりのあったなつかしい人にも会いたいでしょう。ご兄弟の代になった家や、なつかしい場所に、職員も同行して差し上げることは、できないでしょうか。いろいろ皆で、智恵を出し合いませんか？

でも一番は、利用者さんにとって、今の生活が充実し、安心できる楽しいものであれば、家に帰りたいという気持ちは、もっと穏やかなものになるだろうし、思い出は思い出として大切にできると思うのです。

私達自身、親を亡くすし、子どもの頃暮らしていた家はとっくに無かったり、兄弟に会うことができなかったりします。でも私達は今、家族が居たり、友人が居たり、いろいろな人との触れ合いがあるから。いつまでも失ったものに拘らずに生活できます。同じだと思うのです。利用者さん達の生活をもっともっと豊かにしなければと切実に思います。

利用者さん達の思いを「私だったら…。」に置換えて考えてみませんか？